

# 感染症

## 相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第25週)

(令和8年6月15日～令和8年6月21日)

令和8年6月25日

定点報告(上段:定点当たり/下段:報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2026年					2025年 合計	2024年 合計
		22週	23週	24週	25週	合計		
定点報告	インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-
		0	0	0	0	582	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	1.00	-	-	2.00	-	-	-
		3	0	0	6	138	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	0.50	0.50	0.50	-	-	-	-
		1	1	1	0	31	156	309
	咽頭結膜熱	1.00	-	-	1.00	-	-	-
		2	0	0	2	8	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	1.50	1.50	0.50	-	-	-
		3	3	3	1	89	243	657
	感染性胃腸炎	1.50	1.00	2.00	0.50	-	-	-
		3	2	4	1	123	430	610
	水痘	-	-	-	-	-	-	-
		0	0	0	0	4	10	6
	手足口病	0.5	0.50	-	-	-	-	-
		1	1	0	0	2	15	952
	伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	-	-	-	0.50	-	-	-
		0	0	0	1	14	59	182
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	4	19	
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	1	10	13	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	2	9	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	3	16	1	
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	1.00	-	1.00	1.00	-	-	-	
	1	0	1	1	14	42	16	
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザ入院	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	7	39	19	
新型コロナウイルス感染症(入院)	-	-	-	1.00	-	-	-	
	0	0	0	1	22	56	120	
急性呼吸器感染症(ARI)	64.33	48.67	57.33	72.67	-	-	-	
	193	146	172	218	4,616	8849	-	
全数報告	レジオネラ症	0	1	0	1	3	5	3

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	咽頭結膜熱が増加しています。
全数把握疾患	レジオネラ症(70代1名)の届出がありました。

新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)は、前週と比較して増加しました。他疾患と同様、基本的な感染対策が重要です。
結核	本県で2例報告がありました。昨年と同様、高齢者や外国出生者が多くを占めている状況です。外国人労働者を多く雇用する事業所や高齢者施設は、既存の感染対策に加え、結核対策としての定期健康診断を実施し、早期発見に努めましょう。
腸管出血性大腸菌感染症	本県で1例報告がありました。腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素を産生する大腸菌に感染することで起こり、2～9日ほどの潜伏期間の後、激しい腹痛を伴う下痢や血便等の症状が生じ、時折重症化します。主に、菌に汚染された食品等を摂取する経口感染により感染し、人から人への感染は、感染者の便や菌の付いたものに触れたり、手洗いを十分にできなかった場合などに起こります。梅雨入りを迎え、湿度が高くなる日が多くなるため、食品の適切な管理を徹底しましょう。
レジオネラ症	本県で3例の報告がありました。レジオネラ症は、レジオネラ属菌による感染症で、慢性疾患や加齢等で免疫機能が低下した方や喫煙、大量飲酒者は、肺炎を生じ、重症化するリスクがあります。菌が常在する乾燥土壌の土埃や、菌が存在する入浴施設、加湿器等の水場からのエアロゾルで感染が多いので、定期的な清掃を含めた施設での対策や、加湿器、エアコン等の使用前後の清掃、消毒を徹底しましょう。
麻しん	県内での発生は確認されていませんが、国内で感染の報告が続いています。麻しん(はしか)は麻しんウイルスによる感染症で、感染すると咳、鼻水、高熱、発しんが生じます。空気感染が主な感染経路であり、極めて感染力が強く、免疫を持たない人が感染者に接するとほぼ全員が感染します。手指消毒やマスクのみでは予防することができません。最も有効な予防法は、ワクチンの接種です。海外からの輸入事例がほとんどであることから、特に海外へ出張・旅行に行く方は、ワクチン接種(2回)の有無を確認し、感染に十分注意しましょう。

### 基本的な感染対策のお願い

- ・咳やくしゃみ等の症状があるときは、マスクを着用したり、鼻や口をティッシュ等で覆うなど、他の人への感染拡大防止に努めましょう。
- ・流水・石けんによる手洗いは手指など体についたウイルスを除去するために有効な方法です。こまめな手洗いに努めましょう。
- ・室内ではこまめに換気をしましょう。窓開けによる換気は、対角線上にあるドアや窓を2か所開放すると効果的な換気ができます。
- ・普段と体調が異なる場合には、出勤や登校を控えるなどの体調管理に留意してください。

(参考・引用) 福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第25号